



なかがめ けんじ  
**仲亀 恭平**  
(つなぐ)

教 育  
保健福祉

## クラスに1～2人の現実… 不登校児童への支援体制を伺う



**問** 現状を伺う。

**教育長** 約26人に1人が不登校の状態。(R6)

不登校生徒数	不登校	発生率
小学校	165人	2.7%
中学校	202人	6.0%
合計	367人	3.9%

※答弁を基に作成

**【相談件数】**

相談は全体で2,373件。

青少年相談センターでは639件。

(電話・メール：401件／来所面接：238件)

**問** AI<sup>\*1</sup> 悩み相談は有効か？

**教育長** AIチャットボット等の利点はある。

■匿名性の確保による心理的な負担の軽減。

■教職員の業務負担の軽減。

**問** 多様な相談窓口とAI・ICT<sup>\*2</sup>の活用状況。

**教育長** 仮想空間を活用した学びの場を提供。

■バーチャルスクール<sup>\*3</sup>：市内から10人ほどが登録し、出席扱いが認められるケースもある。

## バーチャルスクールも出席扱い

■相談アプリ「リーバー」：児童生徒が1人1台端末を通じ、心の健康観察を行える仕組み。

**問** 保護者同士が悩みを共有する「懇談会」が必要だと考える。

**部長** 保護者支援団体情報を「一覧表」にまとめ、教育委員会と共有する取組を進めている。

**教育長** 保護者が適切な相談チャンネルにつながれるよう支援していく。

**問** 不登校から「ひきこもり」といった福祉課題へ繋がるのではないかと懸念をしている。

**部長** 不登校が派生して問題が拡大していくリスクは認識している。保健福祉と教育部門の連携を構築するため「こども・若者支援推進本部」を組織した。年3～4回会議開催。



総合教育会議  
「議事録」



つじむら たける  
**辻村 岳瑠**  
(明和)

環 境  
保健福祉

## クマの危険性を見極め、地域活動を止めない道を示す

**問** 以前の議会答弁では、クマとの共存という考えを示していたが、現状を状況を踏まえて、考え方に変化はあるか。

**部長** 共存が一番理想的であるが、人命に危険が及ぶ恐れがある現状から、駆除を優先すべきと考えている。

**問** 局面は変わった。法改正により、緊急銃猟の従事にかかわる猟友会、職員の安全性、体制づくりはどうか。

**部長** 緊急銃猟マニュアルの作成、訓練を実施した。滞りなく対応できるよう訓練を重ねる。

**意見** いち早い地域住民の不安解消や地域活動の維持、猟友会の皆様への配慮を引き続きお願いする。

## 子ども会助成金の見直しについて

**問** 現行の「30人以上」では申請が困難である。地域の実情に応じて、より柔軟な制度への再検討をお願いする。

また、「子ども会」と「寄り合い処」異なる拠点をつなぐ福祉施策について見解を伺う。

**市長** 子ども会へは、市としてもよく相談し、補助金を出し活性化できるように前向きに進めていきたい。



寄り合い処は、誰もが気軽に参加できる場所であり、それが子ども会の拠点であっても良い。こどもたちが学校帰りに寄り合い処に寄ること、こどもは学び、お年寄りに癒しが生まれる。寄り合い処の助成金を増やしていくことも検討している。こどもと一緒に楽しむ寄り合い処として、そうした企画にできれば非常に良いと思っている。

**部長** 寄り合い処は、従来介護保険の財源であったが、強化していく部分については、市の一般財源を充てて取り組む。